令和５年 10 月現地情報

糸魚川駐在

～桑取川魚の森保育活動の実施～

10月７日に上越市くわどり市民の森で、上越市桑取川魚の森づくり推進協議会の主催で桑取川魚の森保育活動が開催されました。これは森林から流れ出るミネラル豊富な水が川を通って海に流れ込み豊かな水産資源を育んでいることから、良好な水環境を保全を図る根源となる豊かな森林を守り育てることを目的に実施したものです。

当日は、にわか雨が降るあいにくの天候の中で会員である上越市漁協や桑取川漁協の組合員の他、小中学校や森林組合員などが参加し、樹木の下草刈やウッドチップの散布等の森林保全活動を行いました。

近年、環境問題が取りざたされることが散見されますが、このような取組により環境が改善し、豊かな水産資源が育まれることを期待しながら、取組に参加させて頂きました。

活動参加者の集合写真

ウッドチップの散布活動

令和５年 10 月現地情報

新潟駐在

～第 66 回新潟県青壮年・女性漁業者交流大会を開催～

10 月 24 日、新潟ユニゾンプラザにおいて、第 66 回新潟県青壮年・女性漁業者交流大会が開催され、漁業関係者や団体など 99 名が参加しました。

当日は、青年漁業士５名、指導漁業士１名が漁業士認定を受けた他、新潟漁協、寺泊漁協及び姫津漁協から合わせて３名が漁業後継者表彰されました。

海洋高校生の発表では、渡邉天さんより「自分から行動することの大切さ」のテーマで、自身の乗船実習の際のエピソードを発表いただきました。

また講演では、北海道大学大学院の名畑公晴氏より「新潟県における漁業者の就業意識」、国立研究開発法人水産研究・教育機構水産技術研究所の高橋秀行氏より「漁業の労働安全－腰痛予防を中心に－」のテーマで講演いただきました。

今大会での漁業者間の交流・情報交換をきっかけに、各地域での漁業・漁村の振興に向けた取組がさらに活性化されることを期待しています。

漁業士認定

海洋高校生発表

令和５年 10 月現地情報

村上駐在

～地元中学生が三面川のサケふ化場放流事業を学ぶ～

10 月 31 日、村上市第一中学校の生徒 10 名がふるさと学習の授業で三面川鮭産漁業協同組合を訪れ、シロザケのふ化放流事業について学びました。

学習は、三面川のウライ漁の見学から始まります。三面川に設置されたウライから、組合員によってサケが運び出されます。この日は 10 尾ほど採捕されました。生徒は間近でみる生きたサケに驚いた様子で、佐藤組合長から「触ってみて！」と促されると恐る恐るサケに触れていました。次は、屋内に移動して採卵と受精作業が行われました。採捕したサケを雌雄に分けて、雌のお腹を割いて卵を出し、素早く雄の精子をかけて受精させます。受精卵は丁寧に扱われてふ化器に入れられました。組合長から、受精卵はふ化を経て３カ月で体重１ｇほどの稚魚になり三面川に放流されることや、放流した稚魚は遥か 3,000～5,000 ㎞も離れたベーリング海やアラスカ湾まで旅をして成長し、４年後また川に戻ってくることなどが説明されました。

生徒たちにとって、身近な魚であるサケ資源がふ化放流事業によって支えられていることを知り、サケの命を繋いでいくことの大切さが伝わる授業となりました。

10 月末現在のサケの遡上は昨年の１/３程度に留まり、ふ化放流事業は厳しい状況が続いています。状況を注視していきたいと思います。

採卵見学

ふ化場内見学

令和５年 10 月現地情報

佐渡駐在

～水津ふれあい体験学習～

１０月１９日、水津ふれあい体験教室が開催されました。

ふれあい体験学習は、水津漁業研究会が地元の小中学校を対象に開催している体験型学習です。平成４年から始まり、今年で 31 回目の開催となりました。

今年度の教室では、恒例の釣り体験と乗船体験、魚捌き体験の他に、佐渡海上保安署の巡視艇ときくさの見学が行われました。普段見ることのできない巡視艇の内部を見学しながら機器の説明をしてもらえ、大人子供ともに興味津々の様子でした。

魚捌き体験では、水津漁協女性部の講師にさばき方を教えてもらいながらスルメイカ・イナダを捌き、一夜干しに加工をしました。教室全体を通して、海の生き物との触れ合いを全力で楽しんでいる様子でした。

このような取組を通して子供たちが海の生き物や漁業に興味を持ち、漁業の振興へとつながることを期待しております。

巡視船の内部を見学

魚捌き体験の様子